

的廣く殊に沃度法は正確なる結果を與ふる點に於て最も優秀なりと信ずるものなり。

(三) 鐵鑛石は其の種類の如何を問はず殆んど皆砒素を含有す、而して其含量は甚だ不同にして同種の鑛石にても産地を異にせるは均一ならず、又其範圍は諸鑛石を通じて予等の實驗の結果より觀れば次の程度にあるもの、如し、 $0.15 - 0.07\%$ なり。

此等當所使用の諸鑛石は比較的含量尠くして諸鑛石を通じ次の範圍にあり、 $0.03 - 0.007\%$ 。

(四) 銑鐵も鑛石と同様に硅素を含有す然れ共其含量は遙

かに尠くして當所製の銑鐵は凡そ $0.017\% - 0.0071\%$ の範圍にあり。

(五) 鐵鑛石及び銑鐵に比して其含量遙かに尠しと雖も鋼も亦明に該元素を含有するなり、其含量範圍は餘程狹少にして稍均一に近く銑鐵含量の約六分の一に相當す、而して當所製平爐鋼及びベセマー鋼に就て見るに其の含量は次の範圍にあり、 $0.0028\% - 0.0012\%$ 。

而して該元素の含有量は是等鋼中に含有せらるゝ炭素其他の元素の含量によりて左右せらるゝ事なきが如し、此現象は銑鐵に於ても同様に認めらる。(完)

英國炭坑同盟罷業と石炭並に鐵鋼業

(此の負しき一篇を小島精一學兄に呈す)

目次

- 第一章 炭坑狀況
 - 第一節 總閉鎖前の炭坑
 - 第二節 總閉鎖後の炭坑
- 第二章 罷業協定
- 第三章 鐵鋼業
- 第四章 石炭業の前途
 - 第一節 國內狀況
 - 第二節 外國狀況
- 第五章 結論

序

同盟罷業は、國民經濟上げかりでなく、私經濟上でも、誠に憂慮すべき現象である。之をどう解決したら良いかは、實に現今世界が苦しんで居る一つの大问题である。若し現在の經濟組織を變へる事が出来ないとしたならば、其解決方法は、只に經世家ばかりでなく、一般人士の責任があり、又考慮しなければならぬ問題ではあるまいか。今盛に唱へられてゐる工場委員制度は新方法として、英米で盛に試みられてゐるのであるが、既に良い結果を得たとの事だ。

今私は其解決方法を茲に云々するのではなく、今回起つた英國石炭坑夫同盟罷業が石炭業並に之と密接な關係ある鐵鋼業にどんな影響を與へたかを具體的に指示し、以て同盟罷業がどんなに恐るべきものであるかを明にしたい。

御承知の通り、英國は石炭と鐵とを主産物としてゐる。従つて今回の同盟

罷業が、英國一般經濟界に打撃を興へたことは僅少でない。不幸にして、筆者は業務に携はる身であるから、廣く材料を蒐集するだけの餘裕を持つてゐない。そこで本小論文も杜撰の譏は免れないことを斷つて置く。

第一章 炭坑狀況

第一節 總閉鎖前の炭坑

坑夫問題は數十年來の英國痼疾である。其最初の大發作は炭價を標準とするスライディング・スケール（滑準賃金支拂法）の徹廢を目的とする一八九三年の大ストライキであつた。爾後今回の爭議に至るまで大小數回起つたのであるが政府の干涉もさほどの效なく、マルクス、エンゲルス派社會主義者の煽動、労働組合の赤化により増々紛窮して來た。又調停が行はれても實質的に云へば多少なり、労働者に有利であつたので之等の點が原因となり結果となつて彼等労働者に罷業を行へば有利な結果を得ると云ふ考を起さすようになつたのである。

斯かる状態で所謂階級闘争の旗幟を鮮明にして進んで來たのであるが總閉鎖前はどんな成績を炭坑業は示してゐるか一寸窺つて見よう。（註一）

(イ) 採炭量（單位噸）

	一月	二月	三月	一九二〇年
一、總噸數	一九四九〇〇〇	一七三六〇〇〇	一七四八〇〇〇	三九〇六三〇〇〇
二、山元消費量	二二三、四四三	一九五七、六〇	二二、五五九四	三三、九二五九八
三、販賣噸數	一七二、六、五五〇	一五、六、八四三	一五、二、三、三六	三、五、七、〇、四三

右の中山元消費量は特別價格で支給さるべき坑夫消費石炭

と會社側で使用する量の和である。販賣噸數は實際處分されたる量即ち(一)から(二)を差引ける數量で此の内輸出が各々二、四七一、七二四噸、二、七六七、八八〇噸、三、〇二四、〇八三噸、三八、七七二、二二三噸であるから其差一四、六五四、八二四噸、一二、四〇〇、五四〇噸、一二、二六八、三二三噸は自國消費量を示す。

(ロ) 生産費

賃金や、必要品、税金其他の費用を總計すると一月三四、六四〇、三一〇磅、二月二九、五四一、七二九磅、三月二九、九四四、二二一磅、一九二〇年三五一、三九五、九五一磅（月平均二九、二八二、九九六磅）に上つた。坑夫用石炭は前にも云つた通り特價で支給されるのであるから支給したゞけを金に換算して差引いた金額は純費用となる。即ち其結果各々三四、四六八、七三三磅、二九、三九九、一六四磅、二九、七九七、八八二磅、三四九、八五五、一七四磅（月平均二九、一五四、五九八磅）となつた。さて前述した販賣噸數は如何程で賣れたかと云ふと各々二九、五七九、四〇二磅、二四、八六二、七六八磅、二四、五三三、六七三磅、三八八、九四七、五一一磅であつて差引して見ると一月二月三月共に大損失をなした事が解る。即ち四、八八九、三三一磅、四、五三六、三九六磅、五、二五九、二〇九磅、換言すれば毎月五百萬磅づゝの損失をしてゐた事が解る。昨年は三八八、九四七、五一一磅の利益を擧げた。今之を解り易くする爲めに一噸に計算して見ると純費用は各々四

○志三片、三八志九片、三九志、三四志となる。之れ即ち一噸の生産費である。之を我國の現在の相場(一圓〓二志八片)に換算して見れば一五圓七錢、一四圓五一錢、一四圓六一錢一二圓七七錢となる。又一噸當りの損得を見ると一月二月三月は各々五志九片、六志、六志一片の損失一九二〇年は三志四片の利益となる。此の大損失は勿論賃金の暴騰と出炭量の減少に歸着すべきである。噸當りの賃金を見れば一月二月三月は三一志七片、二九志四片、二七志一〇片、去年は二五志一〇片に當つて居る。如何に生産費の大部分が賃金に相當するかと解るであらう。

驟つて然らば坑夫一人はどの位の能力を出したかを見れば昨年月平均一六、一六噸、本年一月二月三月は各々一五、七二噸、一四、〇五噸、一四、五三噸で漸次底下しつゝある傾向が解る。之れ勿論彼等が全能力を出して働いたのではなく所謂カンニ一或はサボタージユの状態で争闘をなしつゝ働いたからだ。(註二)。

又賃金の方を見れば反對に漸次騰貴してゐる事が解る、即ち昨年一ヶ月労働者一人當りの収入平均一八磅一二志三片一月二月三月は各々二二磅一志九片、一八磅四志八片、一七磅一五志であつて三月に少々減少したのは地方により一月二月の損失に懲りて賃金引下げを行つたからである。故に結局英國の坑夫は少しく働いて、多くの金を貰うことになつたので、生産費は膨脹し、爲に炭價は上騰の已むなきに至つた。

最近北米坑夫の一日平均採炭高は英國坑夫の一週間の量に等しい。だから合衆國では英國より賃金高きに係らず、ストライキ前の英國炭は米炭の三倍に達した。三月の終りに於て米國非瀝靑炭三弗即ち一五志であつたが英國に於ては賃金の費用にても噸當り二九志を示した。斯くして、以前英國炭は世界一番廉價であつたのが、今や全く一番高價になつてしまつた。(註三)

斯かる始末であるから、若し從來の政府管理を繼續して行くと、政府は坑主並に坑夫に利潤を保證するために、毎月國庫から五百萬磅づゝ補給せねばならなくなる。そこで政府は本年八月三十一日に、政府管理廢止をやる等の所を三月三十一日に引上げんことを議會に提案し、三月上旬此案は通過確定した。愈々こう決すると、坑主坑夫側の狼狽は一通りでなかつた。そこで昨年十一月以來、新賃金率の基礎を定めやうと協議してゐた坑主及坑夫は僅か三週間内に何とか決めて四月一日から實施せねばならなくなつたが此の協議は遂に失敗して、坑夫は三月以來罷業し炭坑は四月一日から殆んど全部總閉鎖して何時解決さるか其曙光すら見えなかつたのであるが、六月末に至つて首相ロイド、ヂョーヅ氏の斡旋で、どうやら一先づ片がついたやうだ。(註四)

(註一)本節は主に Coal Age, June 2, 1921 に據る

(註二及註三) The Economist "The Mind of the Miners," June 18, 1921.

P. 1316-1317. 參照

(註四)勿論この協議に坑主は賃金の引下げを持ち出したに相違ない。三月の

終りに至ると各地方に一交代に就き約二志より十志の引下げを行はなければ坑主は炭坑を經營する事は不可能になつた。

朝鮮銀行調査部「英國事情第三號」二八一—三六頁參照。

就業労働者は昨年月平均一、一八五、一〇九人、本年一月二月三月は各々一、二二四、四八六、一、二二八、七九八、一、一九七、七六五人であつた。

第二節 總閉鎖後の炭坑

閉鎖後罷業は一般經濟界 就中英國工業に、甚大の打撃を與へるので、首相は坑主、坑夫兩側に立つて斡旋に力めたのであるが、坑夫側は頑強に反抗して要求の貫徹に力めた。

従つて炭坑協會（坑主の同盟會 The mining Association of Great Britain.）に入れる坑主の炭坑、又は坑夫聯盟會（坑夫の労働組合 The miners Federation of Great Britain.）の坑夫は全く仕事に従事せず、或は賃金割一制或は利潤割一制、或は炭坑國有を絶叫して爭議を繼續してゐた。故に大抵の炭坑からは出炭なきのみならず全く荒廢する儘に委ねられたのであつた。だから當座の間は、貯藏炭の使用で間に會つたかも知れぬが、やがて消費に不足を告げ、今迄外國へ輸出したのに今度は地位が全く顛倒して輸入を仰ぐに至つた。其供給國の主なるものは北米合衆國、獨逸、白耳等であつた。けれども四月中には、石炭コークス其他加工燃料の輸出は可なりあつた。即ち六十六萬七百四十六噸であつて、前月に比し約百五十萬噸又昨年四月に比し五百九十五萬噸の減少を來したのである。（註一）

今四月四日より六月二日迄十三週間の石炭産出高を示せば

左の通りである。

地 方 名

ノーザンバーランド

デューラム

ヨークシャー

ランカシャー、チェシャー及北ウエールズ

ダービー、ノッチンガム及レスター

スタフォード、サロップ、ウオースター、ウアーウキック

南ウエールズ及モンマウス

* 他英蘭地方

スコットランド

總計

* カムバーランド、グロスター、ゾンマーセット及ケント地方等（註二）

以上約三ヶ月間の總計出炭量は閉鎖前の一週間出炭量の約三分の一にも相當しないのである。如何に少量なるか、解るであらう。參考の爲め昨年七月三日以降一週間の英國出炭量を示して見ると次の通りである。

一九二〇年

七月 十日

七月 十七日

七月 二十四日

七月 三十一日

八月 七日

八月 十四日

八月 二十一日

八月 二十八日

九月 四日

九月 十一日

九月 十八日

噸

四、六七六、三二八

四、六六五、五四六

四、二八四、四一九

四、五六五、二〇〇

三、〇八六、七〇〇

四、五九五、二〇〇

四、六九七、二〇〇

四、五九〇、六〇〇

四、七五〇、九〇〇

四、六〇六、八〇〇

四、六九二、九〇〇

十月	二十五日	四、八三四、〇〇〇
	二日	四、七〇二、八〇〇
	九日	四、七三三、一〇〇
	十六日	四、六一一、六〇〇
	二十三日	一二、五〇〇
	三十日	四、一〇〇
十一月	六日	七五六、三〇〇
	十三日	四、七七五、六〇〇
	二十日	五、二一〇、七〇〇
	二十七日	五、一七六、五〇〇
十二月	四日	五、一七六、二〇〇
	十一日	五、二〇五、四〇〇
	十八日	五、三〇七、〇〇〇
	二十五日	四、五四一、六〇〇
一九二一年	一月	三、二六三、一〇〇
	八日	四、三四四、五〇〇
	十五日	四、八九七、七〇〇
	二十二日	四、六九一、六〇〇
	二十九日	四、六〇六、七〇〇
二月	五日	四、四一八、二〇〇
	十二日	四、三四五、四〇〇
	十九日	四、二八四、一〇〇
	二十六日	四、三二一、四〇〇
三月	五日	四、二五九、〇〇〇
	十二日	四、二七七、二〇〇
	十九日	四、二四〇、四〇〇
	二十六日	三、六六〇、〇〇〇
四月	二日	一、九五〇、一〇〇
	九日	一七九、一〇〇(註三)
	十六日	
	二十三日	
	三十日	
四月四日—七日	四日	

(註一) Labour Gazette (England) June 2, 1921 参照)

英國炭坑同盟罷業と石炭並に鐵鋼業

又輸出輸入を見るに大いに變化のある事が氣付く。即ち昨年同月と對照して見ると左の通りである。

(一) 輸出

一月	一九二一年	一九二〇年
二月	一、七〇〇、一〇六	三、三五八、五七二
三月	一、七二九、一四八	二、六〇一、一五一
四月	一、九六八、〇七八	二、四〇六、一五一
五月	六〇六、五四八	一、九九五、八九五
六月	一四、〇六六	二、一三九、二六一
計	七、五〇二	一、九三〇、六〇八
(輸入計)	六、〇二五、四四八	一四、四三一、五三三
	一、八四九、五三七	

(二) 四月、五月、六月の輸入は左の通りである。

四月	二、八一八
五月	四五〇、一六二
六月	一、三九〇、八二四

換言すれば、罷業後の石炭輸出は漸次激減して來たが、輸入は激増した。而して本年上半期の輸出は、又昨年と比して激減し輸入は昨年少しもなかつたのに、本年は約二百萬噸に達せんとし其價は五、〇二二、三七一磅に達したのである。(註四)

(註二) (註三) The Board of Trade Journal "Output during the Stoppage" "Fifty-two weeks Summary," July 14, 1921. 参照

(註四) The Iron and Coal Trades Review "Six Months Coal Exports," July 15, 1921. 参照

この數字は石炭コークス其他加工燃料の全部を含む。

第二章 罷業協定

坑夫側の態度は益々強硬になつて、罷業は何時解決の曙光が見ゆるか全く見當がつかなくなつた。政府は種々斡旋したけれども、空しく水泡に歸した。併し坑夫側の基金は減少する一方で、収入の途が絶へたので、坑夫聯合會では焦慮し初めた。老獪なる首相ロイド、デョーヅ氏は私に此の點を狙つてゐたのであつた。そこで坑夫聯合會實行委員書記長、ホツヂ氏の協商會開催の懇請を容れ、六月二十七日、坑主側を召集して三者協商會を開き、最後の折衝を試みることになつた。二十七日、首相以下政府代表者を初め、坑主、坑夫兩代表者は商務院内に會合を重ねたる結果、決定條件を協定し、一旦取消した政府補助金交附に對する政府よりの回答を翌日に留保して雙方の妥協を見るに至つた。そして次の週の月曜日即ち七月四日から坑夫は再び就業することとなり、罷業は茲に解決されたのである。

(註) 政府は曩に永久的解決を條件として賦與しようとした千萬磅の補助金を六月四日より二週間目の十八日に撤回する旨を宣言した。坑夫側は一般投票を行ひし結果飽途戦はんとする反對投票絶體多數を占めたので終に六月十八日は時效に歸してしまつた。

決定條件は凡て十三條より成り其内容を一般規定と、特別規定に分けることが出来る。特別規定と云ふのは、就業の日から本年九月迄即ち三ヶ月間に適用すべき規定であつて、此の間を一時的期間 (Temporarily period) とし、賃金を定めるに特別な基礎を採用してゐる。之等の規定と一般規定との關係等色々煩雜な點が多いが解り易くする爲めに、逐條的ではな

く順序を少し變更して要點だけを述べて見よう。

一、坑主、坑夫兩側より同數の委員を以て全國並に地方賃金局 (National Board; District Board) を設立し、兩側に關係なき議長を選ぶこと。

二、標準賃金を定めること。其方法は、本年三月末の各地方基本賃金に、一九一四年七月の地方歩合を加算す。

三、總收入より左の費用を控除して、剩餘金ある場合には其八割三分を坑夫側の収入とし、一割七分を坑主側の収入として充當すること。

(イ) 標準賃金

(ロ) 賃金外の生産費

(ハ) 標準利潤として標準賃金總額の一割七分に等しき額。(坑主の利得)

若し總收入より以上の(イ)(ロ)を控除し、(ハ)の全額に不足を來す場合には不足額を次期に繰越し、次期の計算に於て第一に之を控除すること。

四、最低賃金は、標準賃金に其二割を加算したるものたること。

五、斯の如くして支給したる賃金が、薄給勞働者の生活賃金に足らざる場合は地方賃金局の意見により、若し賃金局の意見纏らざる時は局長の意見により、必要なる程度に於て每一交代に對し日給の追加を給與す。此追加金は前項の控除金額に加算すること。

六、各地方の支拂賃金は、現に其地方に行はるゝ基本賃金に準據し歩合を以て表すこと。但し今後は政府の收入に應じて定期に該基本賃金を修正すること。

七、各地方に於ける賃金歩合を定むるには、前期間の總收入額によること。其總入額は坑主之を報告し、其報告は兩側に關係なき會計士の記載せる坑主の帳簿に據るものにして兩側より検査照合すること。

八、全國賃金局は遲滞なく前項(三)の(ロ)項目を定むること。

九、八月三十一日迄の坑主支拂賃金の決定は、三月の結果により、九月分は七月により其後の分は全國賃金局之を定むること。

十、一時的協定期間を七、八、九の三箇月とし、政府は一時的補助として一千萬鎊を支出し、三月以下に減ぜらるることあるも左の程度を超へざらしめざるること。

- 七月 十六歳以上 一交代 二志
- 同 以下 同 一志
- 八月 同 以上 同 二志六片
- 同 以下 同 一志三片
- 九月 同 以上 同 三志
- 同 以下 同 一志六片

十一、各労働者は、罷業前の位置に復するを原則とし、罷業中臨時に其位置を補ひたるものは、其従前の職業に復せしめ、今回の争議によりて犠牲を出さざるること。

英國炭坑同盟罷業と石炭並に鐵鋼業

十二、全國の炭坑地方を十三區に別ち、各地方賃金制度制定の單位とすること。

十三、本協定は一九二二年九月三十日迄有效とす。(註一) 以上十三條に亘つて特に著しく我々の腦裏に閃くことは、よくもこゝまで坑主が讓歩したものだ云ふことだ。其反面に英國に於ては如何に労働者の鼻息が荒いかを窺はれる。最初の炭坑國有や賃金劃一制、或は利潤均一制の主張は破れたけれども彼等は自己の勞力を資本と對等に認めしめ、利益分配に與ることゝなつた。

之等の點に於て今回の争議は失敗であり、又成功であつた。然し彼等の本當の目的が産業國有の一步たる炭坑國有であるならば利益分配に與つたとて成功したとは云へないのであらう。

扱て今度の協定によつて賃金はどうかなるか。バーネス氏 (Major Barnes) の間に答へてブリッヂマン氏 (Bridgeman, Secretary for Mines) は左の如き計算をなして七月七日衆議院に提出した。

カントリー	大人平均收入		大人推定收入	
	一九二一年六月	一九二一年三月	四月	新規定による七月賃金
ランパーランド	六、一一	一七、一一	九、一一	一五、一一
及チエシイヤー	六、〇八	一七、〇〇	一三、〇二	一五、〇〇
北スタツフールド	七、〇七	一五、〇九	一一、〇四	一三、〇九
北ウエールズ	六、〇四	一六、〇四	九、〇八	一四、〇四
サロツプ	五、〇一	一五、〇九	一〇、〇九	一三、〇九
南スタツフールド	五、〇三	一六、〇〇	九、〇五	一四、〇〇

キャンノツクチエース	六、〇八	一六、〇〇	一四、〇二	一四、〇七
ウアーウキツク	六、〇七	一六、〇八	一二、一一	一五、〇三
南ダービー	六、一〇	一六、〇八	一五、〇四	一五、〇三
レイスター	六、〇四	一六、〇九	一六、〇九	一五、〇四
ヨーク	七、〇八	一八、〇五	一七、〇二	一七、〇〇
ノツチンガム北ダービー	七、〇二	一八、〇六	一六、〇二	一七、〇一
スコットランド	七、〇二	一八、〇六	一四、〇四	一六、〇六
ノーザンバーランド	六、一一	一七、一〇	一二、〇九	一五、一〇
デューラム	六、一〇	一七、一一	一二、一一	一五、一一
南ウエールズ	七、〇四	一九、〇五	一二、〇五	一七、〇五
ゾンマーセツト	五、〇〇	一五、〇〇	九、一一	一三、〇〇
チーン森林地方	七、〇七	一五、〇八	九、〇三	一三、〇八
プリストル	五、〇〇	一五、〇六	九、〇八	一三、〇六

* 三月中に於ける坑主側の提案の下に推定せしものにして各年齢の労働者に對し一交代の平均減額を基礎として計算せり大人労働者に對する減額は可なり大ならんと雖も精確なる額を推定するは不可能なり。(註二)

即ち各地方々々によつて一交代に付き約二志乃至七志の減額を來さうとしたのを、漸く約二志で喰ひ止めるを得るやうになつたのである。斯様に、賃金の點はどうやら妥協が出来たがこの妥協がいつまでも續くであらうか、來年九月後はどうなるか、甚だ心細い感じがするのではないか。

首相ロイド、チョーヅ氏は上述の決定條件に就て、大要左の如く述べた。

「賃金は、各地方別に決定すべき必要あるが爲めに、賃金劃一制は放棄されたり。規定中、一時的期間を設けたる所以は、戦時並に戦後の特別なる事情に基きて生ぜる特別困難なるこの事件に、橋渡をなさんが爲めにして、政府は曩

に斯る特別なる事情の爲め、又一般的損害、海外貿易不振を招きし爲め、衆議院に此の橋渡をなすべき特別期間中、財政上の扶助をなすの必要を通牒せり。然れども議員は、常に我國石炭界の永久の平和を保證すべき永久的解決條件が明瞭に、決定的に、發表せられずんば一票をも投ずるを得ずと稱せり。

扱て、余は、今に至りて石炭界の永久の平和を保證すると思はるべき協定が締結せられしのみならず、満足なる基礎に立ちて、其平和を保證するものなりと考ふるに及びて、欣喜雀躍に堪へず。此の永久的決定條件は、賃金收得者の報酬に就き、此方法を確定するものにして、即ち労働者は雇主と共に、産業利益の分配に與るものなり。斯の如くにして労働者は、直接に賃金を得、又個々の努力に對して、刺戟を受くるのみならず、間接に産業利益を得るなり。余は、古來未だ我國は勿論、孰れの産業史上に於ても、利益分配法の理論に、斯る大規模なる科學的適用を見ず。」と更に曰く、

「大産業を有する如何なる國と雖も、此の種の實驗を計畫せしものなし。即ち、之によりて雇主と労働者の完全なる協働、完全なる利害參加、及び彼等自身が作れる繁榮に完全に参加し得るものなり。此の規定は、炭坑業のみならず凡ての事業に勞資の新關係を創始するが故に、甚だ有望なるものとす。」と。又一勿論、今回の爭議は莫大の費用を要

し、破壊的のものにして、我國商業を將に蹂躪せんとせし
 も、余は信ず、此の新方法が好意を以て活用せらるゝ曉に
 は、既に蒙りし凡ての損害を償ふに餘りあり」と。(註三)
 實際今回の争議は直接間接種々なる方面に大打撃を與へた
 のであつた。不景氣のどん底にあつた英國には、全く泣き面
 に蜂であつたのである。ロバート・ホーン氏は炭坑閉鎖に關し
 政府の取りし處置の費用に就き、明に評價し得るものゝみに
 ても、次の如くなり云つてゐる。

陸軍費	七、〇〇〇、〇〇〇 磅
海軍費	一、二二五、〇〇〇
航空費	三三〇、〇〇〇
緊急組織費	三〇〇、〇〇〇
石炭業保護費	一、〇〇〇、〇〇〇
計	九、八五五、〇〇〇

又市長バーネス氏は凡ての損害を約二五〇、〇〇〇、〇〇〇
 磅と見積り其責を政府の處置適宜ならざりに歸して居るが
 又管理徹廢を原因にして居る人もあるやうだが、前後の形勢
 を見れば、坑夫側は、例の賃金劃一制を固守したてであらうか
 ら、早晚罷業は免れなかつたであらう。だから若し管理令が
 遅延したとせば、政府は其間利潤と、賃金を補償せねばなら
 ないから、尙更損害を受けねばならなかつたわけだ。(註四)

(註一) "The Coal Dispute, Terms of Settlement" The Board of Trade
 Journal June 30, 1921 參照

(註二) The Colliery Guardian "Coal Miners' wage," July 15, 1921 參照

The Iron and Trades Review "Coal profits and Wages," July 15, 1921

一九一三年の炭坑利益は支拂賃金每一〇〇磅に付二三磅、一九一二年は一

英國炭坑同盟罷業と石炭並に鐵鋼業

九磅、一九〇九年より一三年の平均は一六磅であつた。

(註三) The Colliery Guardian "The End of Coal Stoppage," July 1, 1921.

參照

(註四) The Colliery Guardian, "Cost of Coal Stoppage," "The Mining Stop

page," July 8, 1921. 參照

第三章 鐵鋼業

私は同盟罷業の影響を受けた顯著な一例として、左に鐵鋼
 業を述べて見よう。

製鐵業の隆盛如何は一般經濟界の好、不況と石炭の如何に
 よつて、左右せられる。英國鐵鋼業は、今や外に對しては、
 世界的不景氣の敵を控へ、内にあつては、坑夫同盟の大敵に
 當らねばならなくなつた。假令石炭は、出なくなつても外國
 より輸入すればよさそうなものゝ、製鐵業に於ては使用すべ
 き石炭の性質の範圍が決つてゐるから、そうは行かない。又
 適當な石炭があつても、輸入しては高價になるので全く困り
 切てしまつた。此のようにして内外より敵を受けて、全く文
 字通り、絶體絶命になつてしまつたのである。

そこで製鐵業はどんなになつたか、數字に現はれた成績を
 窺つて見よう。

一、鐵鋼製産高。

四月の製産高は急減して僅に銑鐵六〇、三〇〇噸、鋼鐵六
 八、〇〇〇噸を計上するに過ぎない。之を前月に比較して見
 ると共に約六分の一に相當してゐる。一月二月三月と見てく
 ると、減少の傾向があるから、之を全然同盟罷業に歸するの

は、少し無理かも知れないが、然し最大の原因を與へてゐると云つても過言ではあるまい。今戦前の平均月産額と、昨年八月から本年四月に至る、英、米、佛、白の四國生産高を比較對照して見ると左の通りになる。

	(イ) 銑鐵 (單位噸)			
	英國	合衆國	佛國	白國
一九二三年平均月産額	八五五,000	二,五八〇,000	四,七〇〇,000	二,〇一八,000
一九二〇年八月	七五三,000	二,一四七,000	三,六〇〇,000	二,一〇〇,000
九月	七四〇,000	二,一三七,000	三,四〇〇,000	一,〇五〇,000
十月	五三三,000	二,二七六,000	三,五〇〇,000	一,三〇〇,000
十一月	四〇四,000	二,九四四,000	三,〇〇〇,000	一,六〇〇,000
十二月	六八二,000	一,七〇三,000	三,四〇〇,000	一,四〇〇,000
一九二一年一月	六四二,000	二,四〇一,000	二,八〇〇,000	一,〇〇〇,000
二月	四〇三,000	一,九三三,000	二,七〇〇,000	一,〇三七,000
三月	三六六,000	一,五九三,000	二,九五〇,000	一,〇三二,000
四月	六〇,000	一,一五三,000	—	—
(ロ) 鋼鐵 (單位噸)				
一九二三年平均月産額	六三八,000	二,六〇八,000	三,六五〇,000	二,〇一三,000
一九二〇年八月	七〇九,000	三,五三九,000	二,七三三,000	一,三二四,000
九月	八八七,000	三,五三三,000	二,九五二,000	一,〇九五,000
十月	五四四,000	三,四四三,000	三,一八〇,000	一,一九七,000
十一月	五〇一,000	三,〇九九,000	三,〇八〇,000	一,一七二,000
十二月	七四六,000	二,七四九,000	三,〇七三,000	一,二四四,000
一九二一年一月	四九三,000	二,五八八,000	三,六三三,000	一,一九一,000
二月	四八三,000	二,〇五五,000	三,五九六,000	九八,四〇〇
三月	三五九,000	一,八四九,000	三,四六九,000	九六,三〇〇
四月	六八,000	—	—	—

二、熔鑛爐

内四月末の操業中の熔鑛爐は、僅に一一基で、三月末は一一基、昨年四月末は二七三基であつた。今之を地方別にすると左の通りである。

ククリブランド	五
スタフオードンシャイヤー	二
ダービーシャイヤー	一
ノーザンプトンシャイヤー	一
ウオースターシャイヤー	一
グラモーガンシャイヤー	一
計	一一 (註二)

三、鐵鑛の輸入と鐵鋼の輸出高

四月中の鐵鑛輸入高は一二三、五八三噸で前月に比し一三三、七四一噸少く、一九一三年四月に比すれば五七三、四四七噸少い。

銑鐵の輸出は一一、〇四八噸で三月に比し二、〇三七噸多く一九一三年四月に比すと九〇、三六五噸少い。(註三)

又五月、六月の鐵鋼輸出入を見ると次の様である。(單位噸)

(イ) 鋼棒 (シートバー、チンプレートバー、ワイヤー
ロッド) 及アングル、シエープ等

月平均	輸 入	輸 出
四月卅日に至る滿一箇年	一八七、一三四	三二四、六三二
五月	一五、五九四	二六、二一九
六月	一一、八七三	四、八五一
四月卅日に至る滿一箇年	一〇、七三七	二、一一五

(ロ) 鐵棒、アングル、シエープ等

四月卅日に至る滿一箇年 一二七、一一三 五五、九三六

月平均

一〇、五九三

四、六三六

五月

六、六〇六

一、四一〇

六月

七、四七九

九、三四

(ハ) 銑鐵 (鐵合金を含む)

四月卅日に至る満一箇年

三三二、九九六

三八七、七二七

月平均

三七、七五〇

三二、三一

五月

一九、四五〇

一一、〇七四

六月

二三、〇四九

一二、五五二

之に據ると輸出入が幾何に低下したか一目瞭然と解るであらう。(註四)

上述の状態なので鐵鋼製造工場は或は全然閉鎖し、或は暫時事業を中止しなければならぬ運命に陥つた。假令繼續して行つても損をしたか、或は内國の止むを得ぬ需要を充して居たに過ぎなかつたのである。此の様にして鐵鋼業は細々と煙を立てゝゐた。

されば、五月十七日、雇主雇傭者兩者を代表する全國鐵鋼製造業者聯合會 (National Federation of Iron and steel Manufacturers) は、首相に陳述書 (Memorandum) を提出して、其窮狀を訴へ、政府の補助あらん事を閃した。其大要を述べると左の通りである。

「世界的不景氣に伴ひ、費用嵩みし結果、英國鐵鋼業の生産高は、三月の終りに於て、昨年同月に比し半分以下になつた目下は石炭同盟罷業の爲めに、皆無の有様である。歐洲品は (イ) 獨逸賃金の廉きこと。 (ロ) ローレンや、白國の製造業者

は過去二ケ年の間、重税を課せられず、爲に費用は割合に少きに係らず高價に販賣し、其蓄積した基金を以て一時損失しても取引を繼續し得ること。(ハ) 白國に於ては、戦場のスクラップ多きこと。(ニ) 平和條約は、ルクセンブルグ、ザールに於ける三經濟上の鐵鋼地方を、五地方に分離し、此の分離とローレンが佛國に歸屬したることは、歐洲の斯業統一組織を殆んど瓦解せしめ、爲めに需要減少せば莫大なる價格を切り下げあること。(ホ) 英國は、歐洲諸國に對し、爲替相場上、不利の地位にあること。」「等の理由によつて到底競争し能はず」と述べ、「鐵鋼業界は歐洲に於ける費用より遙に低下しなければ、回復することは不可能である」とし、更に次の様に説明して居る。

「一九二〇年に、遙に七千萬磅 (中約五千萬磅は直接賃金) 以上であつた、原料の原價は目下の石炭業協定の如何に左右せられるのである。何となれば、生産費の大部分を占むべき、英國鑛山坑夫の賃金、又は大抵の骸炭爐労働者の賃金は、石炭坑夫の賃金に従ふからである。又外國の事情を念頭に置き沈思熟考せる斯業雇主の意見によれば、燃料が他の費用項目と共に、如何に高くなつても、精々戦前の七五乃至一〇〇パーセントでなければ回復する望みはない。そして費用項目の中で、僅少であるけれども、主要なのは、鐵道運賃であつて鐵鋼業の如きは、重量重く廉價な材料を使用するから、殊に重大なる費用の要素をなすのである。けれども、假令燃料や

其他の費用が減少せられても、若し佛、白、獨の政府が斯業に對し、直接又は間接に獎勵金下附の政策を取つたら、尙充分とは云へない。經驗の示す處によれば、獎勵金下附の方法による競争が始まる場合には、斯業を犠牲にするか、其生産品を國內需要の程度に限定するかでなければ、如何なる國民と雖も、競争を避けることは出來ないのである。然るに我國(英)の戦争による經驗は、第一法の可能性を是認しない。さればとて、第二の方法を取る必要もない。何となれば、戦前我國(英)鋼の供給し得たる量の七五パーセントは、直接間接に輸出し、必要なる食糧品、材料を輸入するに要する購買力を爲す主なる方法の一つを構成したからである。目下此の事業に面せる困難は、政治上の種々なる原因に存する。之れ我々が(聯合會)政府に注意を促す所以である」と。(註五)

斯様に製鋼業者は其前途に對し悲觀して居るのであるが、同じく英國人でも、ロバート・ハットフィールド氏(Sir Robert Hadfield, Bt.)の如く、樂觀者のあることを忘れてはならない。同氏の所説を聞くと、大略左の通りである。

「鐵鋼業の前途に就て述ぶるは目下の場合困難なることである。第一に重要なことは如何にして生産費を低下し、内國需要を呼び起すのみならず、外國市場にて競争し得るかと云ふことである。其中で最も重要な問題は、炭價問題である。そして若し我國(英)が一般労働問題に關する重大難事を解決するを得ば、鐵鋼業は充分隆盛に赴くであらう。」

世界鐵鋼業は、過去五箇年間戦争の爲め、鋼製造に全力を集中し、僅に此の一部分が建築材料に使用せられた。従つて戦争中止と共に、鋼は必要に迫られ、今迄の不足を補はんとして、注文は陸續として殺到した。そして戦時に於けると同じ大規模で生産に従事したのであるが、世界一般の不景氣により又之に伴ふ生産費が増加して來たので、注文は激減した。此際米國並に佛國の鐵鋼關係者が、同盟して英國に當り此の團體の攻撃並に卸相場價格の引き下げに依つて、世界市場より我々(英)の地位を驅逐すべしとの噂であるが、此の噂の原因は北米ユー、エス會社のゲリー氏(Judge Gray)が佛國を訪ひ、本國の業務緊急なる爲め終に英國を訪問する事が出來なかつた一事によるのであつて、余(ハットフィールド氏)は同氏と昵近の間柄であるから、這般の事情に通じて居るのである。如何なる國でも、鐵鋼を充分支配する地位を得るものではない。蓋し世界需要に應ずる事を得る程金屬は充分あるものでない。

若し戦争がなかつたならば、北米合衆國は鐵道會社が豫定計畫を遂行する爲に、鋼軌條に少くも直ちに千二百萬噸を要すべく、奧太利、獨逸の鐵道は過載軍需輸送を行ひし結果、悲惨なる状態にあるのである。だから之等が回復を計るとせば、獨逸製造者は更に千二百萬噸を要求し、露國は平時状態の回復に伴ひ現在鐵道の修繕、改新には六百萬乃至八百萬噸を必要とするであらう。

軌條の供給は鋼生産の一面を現はすのであるが、之と同様橋梁、諸軌道、建築材料、諸機械、又はピン、ペン等の細小物に至るまで需要の増加することは明である。之等の點より考ふるに米、獨は自國の需要に追はれ、之等を充す爲には輸出市場に俟たねばなるまい。

「英國鋼製造業に於ては、機械並に生産方法の改良發表せられた爲に大發展をなした。之れ來るべき外國貿易に於て我等（英）の製産優勢の地位を維持するを得るであらう」と。

思ふに後者の論は生産費低減、勞働問題解決の可能を是認し、之を前提として居るものである。前者は之と全く反對に生産費を低減することは到底不可能であつて、補助金を仰がんとするものである。そして兩者とも炭價に對しては最大なる意味あるを認め、勞働問題の解決を渴望して居る事が解る我々第三者にあつては後者より前者の方が正鵠で根本的に理由が存在して居るやうに思はれる。（註六）

（註一）The Economist "Iron and Steel Production," may 14, 1921. 參照。

六月の鐵鋼產出高は The Times Trade Supplement "Iron and Steel Output," July 30, 1921 によれば僅に八〇〇（銑鐵）一、九〇〇噸（鋼鐵）であつた。

（註二）註三）The Labour Gazette (England) June 2, 1921 參照。

（註四）The Iron and Trades Review "Iron and Steel Imports and Exports," July 15, 1921. 參照。

（註五）The Economist "The Iron and Steel Example," June 25, 1921 參照。

（註六）The Times Trade Supplement "Prospects of British Steel Industry," June 25, 1921 參照。

第四章 石炭業の前途

第一節 國內狀況

今回の争議は過去の幾多の炭坑争議と其趣を異にし、坑夫側は何處までも徹底的に自己の主張の容れられんことを求め、之が爲め敢て廢坑となるをも厭はなかつた。四月一日以降入坑した者は殆んど無かつたし、排水作用其他も全然放棄されてしまつたので、炭坑は、荒廢の儘に委せられた。従つて今回の争議中には、最も緊要なるべき地下の修繕を遂行することは不可能であつた。

斯様にして、坑道又は坑面工事の損害や、水、瓦斯の充滿の程度を測定することは出来なかつたのである。であるから、假令、協定は成立しても、直に入坑して石炭を採掘する事は出来なかつた。先づ第一に之等の障害を除去せねばならなかつた。此の爲めに、恐らく約二十五萬人の勞働者は當分不要になり、其大部分は炭坑業から永久に關係を斷たなければならなくなるであらう。而して一噸當りの勞働費は、幾分か廉くなるであらう。

或は產出額が平常に復するには數週間を要すべく、或は埋藏量の關係より放棄の外なかるべく、又水の充滿の爲め永久に閉鎖するものもあるべく、有利なる事業としてはもはや希望なき坑數も生ずるであらうが、又反對に新經營が新生命を與ふべき舊經營の炭坑もあるかも知れない。

以上の様な有様は、程度の差こそあれ、現在英國炭坑界の

實狀であつてスコットランド、殊に東部地方では、労働者の態度甚だ強硬であつた爲めに、炭坑は、殆んど全く廢滅に歸した。或は地下ポンプ、並に電氣の設備は、全く水に浸された爲めに、採掘作用は多大の損害を受けた。イングラント、ウェールズ炭田地方は、之より良好で、ミッドランドの大多數の炭山は、就業後幾ばくもなく採掘し出炭するであらう。南スタフォードシャー地方は、ポンプの閉鎖の結果としてチプトン地方は昨年廢止されたのであるが、又此の地方に加へねばならぬ處も生ずるであらう。(註一)

南ウェールズのカヂフを中心とする地方の炭坑を見るに、三ヶ月放棄後の修繕は豫想以上であつて、非常な陥落があつた爲め、又は其他の損害で、坑夫入坑前に修繕が必要となつた。勿論労働者の半分は、再び就業するであらうが、彼等は安全なる工場、又は復舊事業に従事して當分採掘には關係しないであらう。そして、斯かる事業が、完成しなければ大發展する事は不可能であらう。又舊習慣を廢止するか否か、容易に決する事が出来なかつた爲め、エツプウェール、及びナイン、マイル、ポイントの數多の炭坑は、已むを得ず放棄せなければならなくなつた。又、トレフォールレストに在る、電氣會社は不幸にして破壊されし爲め、他の五、六の炭坑の全部、又は一部分を數週間放棄せなければならなくなつたのである。斯様に、一方には爭議が未解決の爲め、他方には重要施設の破壊の爲め、石炭産額は極端に減少した。然るに國內

消費者の需要は日々に増加し、到底供給することは出来ない有様である。而して石炭輸出は遙に豫想以下に降つた。されば、輸出禁止は勿論解かれたけれども、炭坑所有者は、契約義務を遂行することが出来ないのので、現物市場で賣ることは出来なくなつた。(註二)

モンマウスシャーの汽船用炭は、世界中最も良き機關用炭であつて、彼等の性質がよき限り、少くとも數週間は、國內鐵道に用ひ盡され、實際市場に現れないであらう。瀝青炭、加工炭、家庭炭は自然國內需要に應ずるに至るべく其少部分が海外輸出を見るであらう。又此の地方に於ても、爭議未解決のものがある。例へばターペンチス炭坑に於ては又月曜日(六月十一日)にストライキが勃發した。其原因は、三月中に雇入れた坑夫の再入坑を、會社側が、拒絶した爲であつて、坑夫側は決定條件を破棄したものと見做し、他炭坑の坑夫等に同情ストライキの勧誘をしつゝある。又同地方は、氣候特に暑き爲め能率に影響を與ふべく、坑夫も、馬も、長き期間怠惰であつた爲め柔弱になつて居ると報ぜられて居る。(註三)

之等の南部地方の炭價は、早渡し(early delivery)にて五〇志、又は之以上の相場であるが、坑主は斯かる値段では、長期の契約を失ふ懼れがあるので、當惑してゐるのであるがさればと云つて生産量が、一定の基礎に立たなければ、將來の炭價は如何程か凡そ豫想することも出来ないの取引する

事は出来ない。

又北米合衆國、其他の輸入國は罷業後契約したる十二ヶ年間、又は二ヶ年の供給契約の履行を主張するので、假令ウエルシユ炭が性質大いに優つてゐても、其輸出には、多大の悪戦苦闘を要すべしと豫想されてゐる。けれども、世界船舶界が著しく回復せば又輸出も隆盛となるであらう。ウエルシユ炭の相場は、輸出最上炭で、一噸四五—四七志六片で比較的廉いので、此の地方の輸入外國炭を放逐してしまつた。

南方石炭の状況は、大略上述の様であるが、罷業解決と共に南アメリカ、印度、エヂプト、伊太利、西班牙、其他外國貯炭所から、多少の注文があつた。然し目下の處外國貿易拂々しからず、此の方面で最も大切なる事は爲替相場が平常に復することである。(註四)

其他チュールラム炭は、常態に復さないけれども日々發展し六月の半ば頃に至れば、ストライキ前の平均産額に略々達するであらうと豫想されてゐる。又マンチェスター附近の石炭は比較的損害甚だしくなく此の地方の紡績業の回復と共に回復するであらう。其他大同小異で特に述べべき點もない。要するに之に由つて概観すれば、本節最初にも述べた通り(一)修繕の必要、(二)争議の未解決、(三)國內需要の増加、(四)外國貿易の減少となる。之等の點より推して各炭坑が、殆んど全部回復して、全能率を發揮するには、少くとも二、三ヶ月はかゝるであらう。石炭貿易の如何は其後でなければ充分に

活動することは不可能であらう。(註五)

(註一) The Times Trade Supplement, "Prospects of the Coal Trade," June 18, 1921. 参照

(註二) (註三) (註四) The Iron and Trade Review, District Coal Trade Reports, July 15, 1921; The Times Trade Supplement, "Coal Prospects," July 9, 1921; The Times Trade Supplement "Coal Outlook," July 2, 1921. 参照

(註五) 再就業後の石炭産額は左の通りである。(一週間産額)

九日迄	二、三五四、九〇〇
十六日迄	三、九二七、五〇〇
二十三日迄	四、三三四、〇〇〇
三十日迄	四、五八七、三〇〇

昨年同月二十四日、三十一日に終る各週間の産額は各々四、二八四、四一九噸、四、五六五、二〇〇噸であるから略々平常に回復したと云へやう。この數字に就て吾々が注意しなければならぬのは罷業前活動してゐた炭坑全部が働いてゐないと云ふこと、坑夫は剩餘利益の分配を當てにして全能力を出してゐると云ふことだ。

(The Board of Trade Journal "Output since the Stoppage," July 28, 1921, p. 102 並に同上 Output since the Stoppage, August 4, 1921, p. 162 & The Economist "Coal output," August 13, 1921, p. 257 参照)

第二節 外國狀況

英國内の石炭業の狀況は、上述の如く渾沌たる有様で、當分回復の見込みなく、假令ひ回復しても争議は免れそうにもないが、更に目を轉じて罷業又は其後の外國は如何なる有様であつたか、又如何になり行くかを概観し、以て英國炭業の前途を明瞭にしたいと思ふ。今之を觀るのに英國炭の市場と、競争者の二點に立脚した方が便利であらう。

英國石炭の販賣市場は歐洲諸國、エヂプト其他英領殖民地

南米等であつて、産出量は世界第二位を占めて居た。然るに戦時中、各國は、鐵や石炭其他の軍需品に對し、輸出禁止の政策を取つたので、各國は已むを得ず自給自足の道を講じなければならなかつた。又平和條約締結後は、出来るだけ外國炭の輸入のストックを使用し、關稅によつて出来るだけ外國炭の輸入を防止したので、各炭坑は比較的順調に發達した。加ふるに世界的經濟界不況の打撃を受けて内外の企業は起らず、内に於ては勞働爭議の爲め大打撃を受けたのである。

輸出國の主なる處は、佛、伊、西班牙、丁抹、エヂプト、アルゼンチン等であつた。

佛國は戦後鐵鑛や、炭坑に新に利權を得た。從來燃料に苦しんで居たが、今度こそは充分であらうと思つて居たのに、尙ほ不足を感じた。そこで炭坑の經營には種々苦心し、一方貯炭量が可なり多かつたので、特別に廉價でなければ英米炭の輸入を手控へて居た。こんな風で二月の貯炭は、百萬噸以上に上つた。又平和條約による五月の獨逸賠償炭は、契約高の三分の一にも達しない。斯くして英國炭坑罷業中は、之等の一部を逆に英國に輸出するような奇現象を呈した。今年一月二、三、四月の出炭、並に輸出入を示すと次の通りになる。(單位千噸)

一、石炭並に褐炭	一月	二月	三月	四月
生産	二、四二七	二、二〇四	二、三二〇	二、三二六
輸入	二、一一六	一、三八三	一、三四八	一、〇六五

輸出	六二	五四	五九	四二
二、コークス				
生産	六七	五九	七二	六九
輸入	五七八	三一〇	八一	二六七
輸出	二	六	一一	七
三、煉炭				
生産	一七六	一七〇	一九〇	一七七
輸入	一七五	七七	三八	五一
輸出	六	五	三	三

(註一)

政府はザール炭を以て、コークスを造り、又ノルド及びバ、ヅ、カレイの炭坑業を盛にし、アルサス、ローレンの鐵鋼と結びつけて、製鐵鋼業の隆盛を計つて居るのである。併し現今は回復事業に没頭し、設備も完全でないが、後者は五月中既に四一八、〇〇〇噸の産額があつた。ザール炭によるコークスは獨逸のルール炭によるコークスより性質が良いとのことだ。

斯様に兎に角佛國に於ては自給自給を急いで居るので輸入炭も前述の如く漸次少なくなつた。産出量は上騰の傾向ある閃を知るであらう。而して、現在の相場は、坑口渡し一噸に付切込炭 (Unscreened) 八〇法、精選炭 (Screened) 一一五法、洗選炭 (washslack) 一〇〇法、煉炭一二五法、鎔鑛爐用コークス一一〇法である。(註二)

次に伊國は、殆んど國內より石炭を得ることが出来ないの故で、從來外國殊に獨逸、英國から供給を仰て居た。けれども炭坑罷業に依つて大した打撃は受けなかつた。其理由は五月

中は尙ほ鐵道省管理のストックとして、百四十萬噸以上も貯へて居たからだ。此のストックの大部分は條約に依て得た獨逸炭であつた。此の國に於ては、主に英、米、伊、白、佛、獨

種類	英	米	伊
汽船用炭	二四〇—四〇〇	二六五—二九〇	—
瓦斯用炭	二七〇—三〇〇	二七五—三〇〇	—
スプリント炭	二六〇—二七〇	二八〇—三〇〇	—
金屬用コークス	三四五—三五〇	—	—
瓦斯コークス	三〇〇—三三〇	—	—
特許燃料	二七〇—三〇〇	—	—
褐炭	—	—	八五—一四五

即ち價格に於ては、獨逸炭が一番廉價である事が解る。英米又は佛、白炭は互に伯仲の間にあるが、英、米、獨三ヶ國の競争と見て差支へあるまい。そこで、更に進んで此の三ヶ國の炭價を少しく精しく觀察すると左の通りになる。

獨逸炭(單位リラ)	(一)	(二)	(三)
ウエストフアリア汽船用炭	二二〇	二〇〇	二六五
シレジア汽船用炭	二二〇	二〇〇	二六五
ウエストフアリア瓦斯用炭	二二〇	二〇〇	二六八
シレジア	二二〇	二〇〇	二六五
ウエストフアリア、スプリント炭	二二〇	二〇〇	二九五
シレジア	二二〇	二〇〇	二九五
ウエストフアリア冶金用コークス	三〇〇	二八〇	三七五
シレジア	二七〇	二五〇	三四五

(一) 1914年價 (二) 戦線に於ける價にして炭車によるもの (三) ミランに於ける價

英米炭。米炭は本國との距離遠き爲め運賃の點に於て英炭よりも

英國炭坑同盟罷業と石炭並に鐵鋼業

炭が市場に現れて鎬を削つて居るが、其の相場を示せば左の通りである。(單位リラ平價三八・七一錢)

白	佛	ウエストフアリア	シレジア
二六〇—三〇〇	二八〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇
二六〇—三〇〇	二八〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇
二六〇—三〇〇	二八〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇
二六〇—三〇〇	二八〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇
二六〇—三〇〇	二八〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇
二六〇—三〇〇	二八〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇	二〇〇—三〇〇

不利の地位にあるが運賃を除いて比較して見ると左の通りになる。(單位リラ)

汽船用炭	(一)	(二)	(三)	英	米
ウエストフアリア	六七、六	五〇、〇	六四、〇	—	—
瓦斯用炭	六〇、〇	四二、六	六五、六	—	—
スプリント炭	六一、〇	四三、六	六七、六	—	—

(一) cif. ゼノア價 (二) fob. ゼノア價 (註三)

即ち數字の示す通り (一) 運賃保険料込價格では英國炭が (二) 本船渡價格では米國炭が有利な地位にあつて互に競争してゐるのであるが、現在の運賃五弗七五仙乃至六弗 (大西洋岸よりゼノア迄) 又は、六弗五〇仙より七弗 (大西洋岸よりレグホルン、ヴェニス、トリエスト其他アドリアチツ海の諸港まで) を加算すると、餘り有勢でもなくなるので、兩者の勝敗は一に運賃の如何に係つて居ると云つてもよい。

又伊國では米國と、長期の石炭輸入契約を締結してゐるも

のが多いけれども、荷物の重量、性質に就て苦情が多いので英國炭を喜んで迎へんとする傾向がある。だから英國炭も米國炭に比しては有望であると云ふものゝ、獨逸炭には一步を譲らねばなるまい。

七月上旬の英國炭價は下落した、昨年(四)五月に比すれば左の通りである。(單位志)

カ	ヂ	フ(上等)	(一)六七、六	(二)六九	(三)一〇八	(四)八四
ニウ	ポ	ート(リ)	六七、六	六八	一〇六	八五
瓦	ス	炭(リ)	六〇、〇	六七	一〇〇	九三
ハミ	ルト	ン、最上スプリント	六一、〇	六九	一〇九	九七
(一)は七月の cif.ゼノア價(二)は七月の炭車による價格(三)(四)は昨年四、五月の炭車による價格						

五月、六月に於ては、同盟罷業に依つて、少しの石炭も英國より來なかつた。運賃は、ウエルシュの港よりゼノア迄一八志乃至一九志タイン(Tyne)より一七志六片である。

米炭の相場は左の通りである。(單位リタ)

汽船	用炭	(一)二五〇	(二)二六五
瓦	斯	用炭	二五五
ス	プリント	炭	二六四
(一)六月末 cif.ゼノア價(二)六月末炭車による價			

其他西班牙は、戦時中著しく産出額を増加し、一方關稅を以て外國炭に對抗することゝした。又丁抹は消息鮮明でないけれども、獨逸のシレジア炭や、ポーランドの石炭輸入があつたに相違ない。又露國は國狀回復に至らば大なる需要があるであらうが、現狀に於ては如何か豫想に苦しむ。エデプト

は、從來と變りなく、南米アルゼンチンは殆んど米炭の輸入を受けた。其他印度、南阿、濠洲、支那、日本に於ては戦争中、發達したし又は發達しつつあるから蘇土以東は英炭を見ない様に至るであらう。(註三)

更に競争國たる米、獨、白の立場から英國石炭業を見れば甚だ興味あるものがある。先づ四國最近の生産高を見ると左の通りである。(單位千噸、一噸二、二四〇封度換算)

月	平均	英	米	獨	佛	石炭	褐炭
一九一二年	三、七〇一	三、七〇七	三、七〇五	一、八八四	一、四三三	六、六三六	一、五五〇
一九一三年	三、九五一	四、三三六	三、七四〇	一、八八一	一、五七〇	七、一五五	一、五五〇
一九一九年	一九、一四八	四〇、五二四	一、七九三	一、五三三	八、八三三	七、六九三	一、五七〇
一九二〇年	一九、一三八	四六、〇三三	二、九七三	一、八三六	一〇、七〇八	九、一五七	一、五七〇
一九二〇年一月	一七、四〇二	三九、五三三	二、五三三	一、八七一	九、八七三	八、七六二	一、五七〇
五月	三三、三〇b	四三、〇五〇	二、七三三	一、七〇九	一〇、〇六四	八、六九三	一、五七〇
六月	一九、〇七七	四七、七〇九	三、〇七三	一、八五七	一〇、八三六	九、四三三	一、五七〇
七月	三三、三六b	四七、六九七	三、一六七	一、八八一	一一、三九三	九、〇九三	一、五七〇
八月	一六、九〇a	五〇、九六九	三、〇三六	一、八三七	一〇、六九三	九、五〇三	一、五七〇
九月	一八、八八a	四六、一〇〇	三、一六三	一、八七九	一一、三六九	九、九四三	一、五七〇
一〇月	一四、〇四b	五三、八八四	三、三三三	一、九三六	一二、六八四	一〇、三九三	一、五七〇
十一月	一五、九一九a	四七、八三〇	三、三三三	一、六〇八	一一、六三九	九、六三三	一、五七〇
十二月	二〇、三三a	五三、八三〇	三、三三三	二、〇一九	一二、七九三	九、九三三	一、五七〇
一九二一年一月	一九、四四九	四一、四七三	三、一九四	二、〇〇九	一一、二二二	九、九三三	一、五七〇
二月	一七、二二a	三九、六二二	二、八三三	一、七五〇	一一、二二二	九、八三三	一、五七〇
三月	一七、四〇a	三〇、四〇三	二、九二二	一、七七一	一一、二二二	九、七三三	一、五七〇
四月	—	三九、五八b	二、三三三	一、六八五	一一、二二二	九、七三三	一、五七〇
五月	—	三九、六三a	—	一、五七〇	—	—	—

(a) 四週間 (b) 五週間 (c) ローレンの産額を含む (d) ローレン、ザールの産額を含む (e) 推定數字 (f) ローレン、ザールの産額を含まず

之等の中米國は英國に取つて非常な敵である。最近炭價を比較して見ても約七弗の差がある、之は競争をなすのに餘りに大と云はなければならぬ。けれども歐洲とは餘りに遠き爲め、運賃、保険料、其他の經費が餘りに多く又歸り荷が少いのと、稍もすれば國內で炭坑夫同盟罷業が起らんとする形勢あり、本年の消費量豫想が五億噸で消費量が莫大に上ると、加奈陀や、南米に輸出をするを有利とする點から、歐洲に殆んど侵入する餘裕は存しないであらう。(註四)

白國は競争國として生産量が、餘りに少いが全然念頭より去ることは出來ない。一方獨逸の賠償炭の月々輸入あるを忘れてはならぬ。英國炭坑夫罷業協定が成立した爲め、白國炭の需要は即座に減少し、貯炭は再び増加し初めたけれども價格は弱氣を呈しなかつた。蓋し、家庭用石炭なる半瀝青炭のような特種の石炭は市場に少いし、アントワープ等に於ける船舶積込炭が多いからである。之等の中には英國トロール漁船が石炭の代りに煉炭を用ひてゐた。七月中の獨逸賠償炭は二四八、一九七噸(割當二二三、〇〇〇噸)の輸入あり。其中コークス用石炭七一、〇〇〇噸以上鑄鑪爐用コークス二二、三四〇噸(割當以上三三〇%)の供給があつた。(註五)

最後に最も英國の恐るべき敵は獨逸である。獨逸が果して賠償金支拂の義務を果し得るか、否かは別問題として生産上に於ても、價格上に於ても、決して看過してはならぬ。生産

は上述の如く、殆んど戦前に回復した。價格は後述の如く廉價である。只缺點を云へば、政治上の不安と、聯合國に對し果すべき義務が餘りに大なる爲め、充分活動し能はざると比較的良好の性質の石炭に乏しい事だ。一人當り能力に於ても、殆んど差はないけれども、一つは新興の精神、各人に充満して居るのと、他は老衰せる充足の精神の横溢してゐるのとで、其國民の意氣に於て、一步の差がある。(註六)實際「麒麟も老ひぬれば駑馬に劣るが如き」慨があるではないけれども現今最も勢力を張つて居る社會民主黨が、果してよく戦後の難局を切り抜け、労働者の精神を弛緩せしめず、復興の大事業を完成せしめる事が出来るかどうか、神ならでは知られない問題だが、彼の本質たる勤勉忍耐の國民性が、假令長年に亘るにしても、著々實現するであらう。さて、七月一日より實施する石炭同盟會(State coal Federation)の新炭價は左の通りである。

(一) レーニッシュ、ウェストファリア、シンジケート炭

(イ) 瀝青炭

混合最上	二五四、九〇 <small>馬克</small>	塊炭一號	二九八、〇〇 <small>馬克</small>
塊炭一號	二九八、〇〇	洗胡桃大一、二、三號	三〇四、六〇
胡桃大一、二、三號	三〇四、六〇	〃	二九三、八〇
胡桃大	二九三、八〇	〃	二八三、二〇
〃	二八三、二〇	〃	二八三、二〇

(ロ) 瓦斯及乾溜炭

混合最上	二五四、九〇 <small>馬克</small>	塊炭一號	二九八、〇〇 <small>馬克</small>
塊炭一號	二九八、〇〇	洗胡桃大一、二、三號	三〇四、六〇
胡桃大一、二、三號	三〇四、六〇	〃	二九三、八〇
胡桃大	二九三、八〇	〃	二八三、二〇
〃	二八三、二〇	〃	二八三、二〇

(ハ) 鍛冶炭

最上混合五〇%	二五四、九〇 <small>馬克</small>	塊炭	二九八、〇〇 <small>馬克</small>
胡桃大一、二號	三三四、三〇	胡桃大	三二〇、〇〇

// 四號 二九三、八〇

(ホ) 煉炭

(三) 無煙炭

胡桃大一號 三三二、八〇^{馬克}

第一種 三四一、一〇^{馬克}

// 二號 三七三、九〇

第二種 三三九、八〇

// 三號 三三三、四〇

第三種 三三七、六〇

// 四號 二七三、六〇

(二) 褐炭 グスタープ炭(ライン右岸ババリアン、シンヂケ

ート炭)

煙 炭 三一五、五〇^{馬克}

// スクラップ 二二三、二〇

(註七)

以上斯様な風に観てくると、英國石炭界の前途には暗雲頻りに漂ふて、些の光明をも見られない様である。一寸見た處では全然悲觀すべきである。けれども幸なる事には、英國炭の性質優良なるが故に、鐵鋼業の如き特に或性質の石炭を要する場合があり、又有力な競争國たる獨逸は、平和條約による負擔が重い上に、一般世態が不靜でない等で、さほど悲觀したものでもない。だが、英國炭が平常に回復する頃には、獨逸も白耳國も相當に發達するから、從來の地位を占むる事は出來ないであらう。又米炭も餘裕があり、輸出して引き合ふ様になれば、歐洲市場に遠慮なく現れるであらう。若しそうなれば、英國炭の前途は益々不利になるわけだ。兎も角當分の間は、歐洲市場に於て英、獨、白の三國炭が競争し、後二者が優良の地位を占むるに相違ない。

外國貿易は、一般經濟界殊に船舶界の復興と爲替相場の如何に依つて又左右せらるゝものであるから、此の方面から英

國炭の前途を見る必要があるが、此の方面は暫く他日の研究に委ねようと思ふ。

(註一) (1) The Times Trade Supplement "Prospects of the Coal Trade,"

June 18, 1921. (2) The Colliery Guardian "Continental Notes" July 8, 1921 參照

(註二) The Colliery Guardian "Continental Notes," July 15, 1921. 參照

(註三) 註二參照。上述の獨逸炭價格の中スウキス又はオースリアの戦線に於ける炭價に於ては伊國の到着港で石炭三〇リラ、コルクス二〇リラの税を課せられ、同種のもがミランにて引渡さる時は、石炭二六五リラ、冶金用コルクス二九六リラとなる。

(註四) (註一)の「」參照。一九二〇年の瀝青炭同盟罷業によりし燃料饑饉が本年も再發あるべしとの一般憂慮あるを以て、大統領ハーヂング氏は、此の問題に就き大利害關係者と懇談し、燃料の在荷調をした。そして豫想は本年五億噸を消費すとし、夏の中頃に二億噸以上の由である。

米炭の大半は加奈陀に輸出する。ブラジルやアルゼンチンにも可なり輸出する。

(註五) (註一)の(2)(註三)の(1)參照

(註六) 獨逸石炭坑夫一人當りの生産量は左の通りである。(單位噸)

一九一三年 一四年 一五年 一六年 一七年 一八年 一九年 二〇年
 六、四三 二、五九三 三、六六六 三、四四九 六、六三三 三、七〇九 一、六六九 一、七九四

即ち漸次低下してゐるが、英の二〇年の一九三、二八噸、又は二二年一、二三月の一四・五三、一四・〇五、一五・七二噸と餘り差はない。

(The Colliery Guardian "Continental Notes," May 13, 1921 參照)

(註七) (註一)の(2)參照

第五章 結 論

英國炭坑夫問題は、愛蘭自治問題と等しく、同國政府の大宿痾である。されば、根本的に大切開をなすべき果斷ある名醫が出なければ、治療は殆んど困難であらう。今度の争議に於ても政府は手を換へ、品を換へ、宥めたり、賺したり、

只管鎮壓に努めたのであるが、二、三歳の譯の解らぬ駄々子のように坑夫等は、いつかな聞かなかつた。利益分配と云ふ駄菓子を得て一寸泣き熄んだものゝ、又次に何か欲しいと駄々を捏ねはしないか、又坑主側は豫定の利益をあげることが出来るであらうか、何とかして、政府に泣き付かうと云ふ意志があるのではないか。孰れにしても政府が如何なる政策を取るか頗る注目すべき又興味ある問題である。

生産費に就き、其大部分をなすべき賃金の低下と云ふ事は、到底英國では見られないであらう。若し賃金を政府なり、坑主なりが提議したら、坑夫は強大なる力を以て居る労働組合又は聯合坑夫組合の力を借りて、必ず反對するに相違ない。勞力が動もすれば資本以上に見られて居る英國では、幸か不幸か永久に苦しまねばなるまい。だから炭價も現在の價格一噸約一五志乃至六五志を上下し、之より下ることはあるまい。

勿論賃金は低下しなくても採炭量が増加すれば、噸當り費用は割に廉くつき従て炭價も廉くなるのであるが、さて採炭量の増加と云ふ事は、能力に限りがある以上、其程度も略々知れたものではあるまいか。採炭量が増加しても市場の消費が増加しなければ坑夫の利とならない。假令今度の協定で坑夫が多くの金を得ても、首相の云ふ通りに刺戟を受けて働くであらうか。彼等の悪い、長い慣習の爲め、一時金を得ても遊蕩や、賭博や、飲酒に耽つて反つて遊ぶ事になりはしないか。

今度の争議に依つて生じた怠惰の精神が果して一掃される

であらうか。人爲的に壞した肉體又は精神は反つて能率を低くする事はないであらうか。斯う考へて來ると、更に一步進める政策が當然生じなければならぬと思はざるを得ない。私は思ふ、近き將來に於て坑夫をして其収入を出来るだけ有効に使用せしめる様な政策が彼等を保護する爲めに更に現れるに相違ない、と。若し獨逸であつたら、強制的に其収入の幾分を貯金なり労働保險の金額を増すなり其他の方法で政府の施設に收めしむるに相違ない。

今回の決定條件では一見した處、坑主側に非常な不利な様であるが決してそうでない。蓋し、標準賃金の一七%は坑主の當然得べき權利で、經費の中で繰り入れられて、費用として控除されるからである。前にも一寸述べた通り炭坑の利益は一九一三年、支拂賃金、每一〇〇磅に付、二三磅（一九一二年、一九磅、一九〇九年より一三年迄平均一六磅）即ち支拂賃金の二三%であつたのである。今回定まれる一七%の基礎をなす標準賃金は、本年三月末の各地方基本賃金に、一九一四年七月の地方歩合を加へるのであるが、戦前の賃金よりも本年三月末の一般賃金は、非常に騰貴して居るから、一七%の絶體數は、二三%の絶體數よりも結局多くなるわけだ。其上利益があつたら其一七%を更に得るのであるから、合計して見ると戦前の収入より遙に多くの収入を坑主は得ることになる。坑夫の賃金は一、二月頃より約一交代二、三志切下げられる事になるが、若し全費用を差引いて、利益があつ

たら其八七%を得る事が出来るが、果して其利益なるもの以上のやうな方法で如何程得られるであらうか。假令得られなにしても、採炭量が増加しない限り販賣されない限り知れたものだ。此の額を多くの坑夫の頭割りにしたら高々一、二月頃の賃金になるだらう。だから、若し利益あらば其八三%の利益分配と云ふ駄菓子で甘く釣られた事になるのである。之等の點から云つても、英國炭は益々上騰する一方と見ても誤はなからう。

ジョン、ロバーツソン氏が (John Robertson, the Chairman of the Scottish union of Mine workers) 政府委員會 (Loyal Commission) で、同盟罷業に就て一坑夫に試問した事がある。其時坑夫曰く「現今の制度は、生産の方に於ては、缺點はないが分配の方に缺點がある。吾々は、餘り働き過ぎて居るのだ。如何なる人であらうと、働く丈の報酬を得れば良いのだ。之から先きの問題は、分配の方面だ」と。彼等は生産を人為的に極少にして居る事を彼等の有利な事と考へて居る。又ホッヂス氏は政府委員會で一九一九年四月二十五日、質問を受けた時、曰く「本事業(炭坑業)に依りて得らるべき利益は我等(坑夫側)が得るのではなくて、此事業に關係しない人々の得る處となる。我等(坑夫側)の勞力から、人に利益を得させるのは誤つてゐる。だから吾々(坑夫側)は今石炭産額の増加を止めて、凡ての利益を吸収し、他の者に少しの利益をも取られない程度まで、賃金を増加しなければならぬ」と 斯かる

思想は、不幸にして現在の凡ての坑夫に浸潤して居るのである。實に、エコノミストが云つて居るやうに「之等の思想が存する間は炭坑業には到底平和は望まれない」のである。そして「賃金を増加する事が必ずしも之等の思想を變化さすべきものでない」勿論、新規定によりて坑夫は一時は全能率を出すであらうが、豫定の利益を擧げ得るか否かは頗る疑問だ。若し利益を擧げ得なかつたら又爭議がそろそろ初まるであらう。(註)

英國鐵鋼業の前途は、殆んど炭價の如何に依つて、左右され得ると私は思ふ。従つて大體英國石炭業と運命を共にするであらうと思つてゐるが之に就ては他日研究することとして茲に筆を擱く。

註 The Economist "The Mind of Miners," June 18, 1921, 參照

(大正十年九月五日稿)